

令和2年度 新川地区町政懇談会

開催日時 令和2年11月11日（水）午後7時～午後8時12分

開催場所 新川公民館 2階大研修室

出席者 立山町 舟橋町長、酒井副町長、大岩教育長、金山消防長、
青木総務課長、野田農林課長、池田建設課長、青木教育課長、
清水住民課長
村上総務課課長補佐、長岡建設課課長補佐、跡治教育課生涯学習係長
地元議員 窪田議員

新川地区区長会 山口会長、澤井副会長

企画政策課 林課長、山田課長補佐、中川課長補佐、松本主任、海老原主事

参加者数 60名（うち町職員5名）

1 挨拶

町長挨拶

2 懇談会

(1) 町からのお知らせ

洪水ハザードマップについて（建設課長・総務課長から説明）

※町からのお知らせ後に質問あり

- 警戒レベル3、レベル4での防災無線について。通常でも聞こえない中で、嵐のような雨の中だと声は聞こえないので、サイレン等で、レベル3ならこの音というようにサイレン音の種類を決めて通知した方が、より分かりやすいと考える。

2点目に、このハザードマップは以前最新として配布されたものと色分けが変更になっているが、配布の都度変更になっているのか。迷うようなマップの提供は非常に不安になる。町として誤ったものを配布したのか聞きたい。

（総務課長）

防災無線は、豪雨時では雨音等で聞こえない可能性がある。そこで、町では、緊急エリアメールの発信、ケーブルテレビ、区長等への電話連絡、広報車でのパトロール、ホームページへの掲載、Twitterでの情報発信など、様々な媒体を通じて周知に努めていきたい。

（建設課長）

洪水ハザードマップについては、今年3月に全戸配布したのと同じものを本日配布している。これは、約1000年に1度の降雨をシミュレーションして算出した浸水深であり、これを最新のものとして利用していただきたい。

- 若宮は栃津川の小さな支流が多く、豪雨時に栃津川の水位が上がると、栃津川が氾濫する前に支流が氾濫する。前回の豪雨でも床上浸水している。この支流が溢れたシミュレーションがされたマップになっているのか。

(建設課長)

このハザードマップは、国直轄及び県管理の河川（常願寺川・栃津川・白岩川・大岩川）についてシミュレーションしたもので、支流については考慮していない。

約 1000 年に 1 度ということなので確率はかなり低いものとなっているが、支流についても氾濫する危険性があるということで、マップはあくまでも目安として利用し、地区の方の経験を踏まえて避難等をしてほしい。

(2) 新川地区協議事項

(山口会長)

① 立山町立新川公民館及び立山町消防団新川分団詰所の改築並びに隣接化について

新川公民館は、建設から 41 年が経過し老朽化が著しく、二階が大ホールとなっているが、住民の高齢化により階段の上り下りが大きな負担となっている。このことから、教育施設である立山北部小学校を借りて活動することもある。平成 29 年度、30 年度には廊下、階段、床などの改修や備品の購入、更新など施設の環境整備に努めていただいているが、新川公民館の改築は、地区住民にとっての長年の願いである。

また、新川分団詰所は昭和 61 年に建設されたが、老朽化が進んでおり手狭なため、災害時の消防団員の活動に支障をきたすことが懸念される。消防団詰所は、消防防災用車輛や資機材の収納場所であり、災害時には団員の参集場所や活動拠点として、平常時には団員の教育・訓練や各種会議の実施場所として活用されている。近年他地区の分団詰所は順次改築されてきており、新川分団詰所も早急に改築していただきたい。改築の際には、新川地区の災害時の活動拠点の集約化を図るため、新川公民館に隣接して建設していただきたい。今年度策定される「第 10 次立山町総合計画」の上期に改築実施年度を反映させてほしい。

(教育課長)

新川公民館をはじめとする町立公民館は昭和 50 年代に整備された鉄筋コンクリート造が多く、老朽化によりどの施設も多額の維持費と修繕費が課題となっている。新川分団詰所についても、昭和 61 年に竣工した鉄骨造であり、これまで逐次不具合箇所の修繕を行ってきたところである。

今年 3 月に策定した「立山町社会教育施設長寿命化計画」において、町立公民館は、これまでの対処療法的な事後保全から、計画的な予防保全への転換により、施設を長寿命化し、さらに、施設ごとに改修や建替えの実施時期を分散化させ、財政負担の平準化を図ることとしている。また、立山町公共施設等マネジメント計画において、公民館と消防分団詰所については、物理的限界まで活用できるよう維持管理し、老朽化対応更新時には、相互に利用しやすいよう近接させ、コンパクト化を図ることとしている。

今後は、町立公民館の事前調査を基とした健全度評価の結果を分析し、その劣化状

況や工事履歴等の情報を蓄積した上で、工事優先度や費用の平準化等を踏まえ、建替え時期等を検討することとしている。また、消防分団詰所についても、老朽度や立地条件等を踏まえ、更新の必要性や時期について検討を進めていく。

ご要望の新川公民館及び新川分団詰所の早急な改築は困難なことから、当面の間は両施設の定期的点検や予防保全と併せ、公民館利用者が安全・安心・快適に利用できるようエアコンの新設・更新など環境改善に努めたいと考えている。

また、現在策定中の第10次立山町総合計画においても、公民館と消防分団詰所を含めた公共施設の適正管理と集約・再編について反映できないか検討している。

② 立山町内における危険な用水路の実態把握、今後の安全対策の基本方針と具体的な取り組みについて

本年7月、泉集落生産組合水門担当者が大雨のため水田への浸水を防ごうと水門作業中、増水した用水路に誤って転落し、亡くなるという痛ましい事故があった。

今年度立山町では、このような用水への転落事故が複数回あったと聞いている。基幹産業である農業にとって水は命であり、それを確保するため町内くまなく用水路が整備されていることはありがたいことだが、時期によってはかなりの量、速さの水が流れている。そのため、農家だけではなく高齢者や幼児・児童生徒等も転落し流される危険性がある。今後このような不幸な事故が二度と起こらないよう、再発防止の観点から、町内における危険用水路の実態把握は行われているのか、行われているとしたら実態はどのような状況なのかをお聞きしたい。

また、今後、用水路の安全対策をどのように進めていくのか、その基本方針と具体的な取り組みについてお聞かせ願いたい。

(農林課長)

ご指摘のとおり、近年、県内において用水路で転落事死亡事故が相次いでいる。過去10年間に、県内で計185件の死亡事故が発生しており、うち13件が立山町内で発生している状況である。

県では「富山県農業用水路安全対策ガイドライン(令和元年12月策定)」に沿って、転落事故の未然防止活動を推進・支援することとしており、町においても県の支援のもと、土地改良区などの関係機関、地域組織等と連携を図りながら、事故の起こらない地域づくりを目指していきたいと考えている。

具体的には、今年8月20日に、富山県富山農林振興センターが主体となって、「ワークショップ」を試験的に浦田地区で開催し、浦田一区自治会長や浦田生産組合長ほか6名のご参加のもと、住民自らが点検と検討を重ね「危険箇所マップ」を作成した。その結果、当地区の9か所で危険箇所があることを再認識し、今後の事故防止対策に役立ててもらおう予定である。

この浦田地区の取り組みをモデルケースとし、「ワークショップ」を町内広域的に横展開し、地域ニーズを把握するとともに、今後、県が作成する「農業用水路安全対策計画」の中に対策を位置付けることで、普及啓発と注意喚起、転落防止柵や鉄筋網蓋等の設置の実施へと繋げていきたいと考えている。

また、通学路や園児の散歩コース等については、学校関係者や道路管理者、警察などによる合同点検を実施し、幼児・児童生徒等の安全確保のため、隣接する用排水路の蓋掛けなどを進めている。

③ 洪水ハザードマップによる指定緊急避難場所の件並びに立山北部小学校の防災設備・備品等、また緊急時の学校関係者との連携及び防災訓練等について

近年、異常気象が原因と思われるゲリラ豪雨が頻繁に発生し、毎年日本各地で災害をもたらしている。特に台風接近の度、河川氾濫が相次ぎ我々の生活を脅かす状況である。

町においては「町地域防災計画」「町避難勧告等の伝達マニュアル」「洪水ハザードマップ」等作成され、災害の未然防止、被害の拡大を防ぐための施策、災害復旧のための方策を検討していることと思う。

中でも、常願寺川、白岩川、栃津川の降雨が原因による増水、堤防の破壊は身近な危機と考えざるを得ない環境となっており、新川地区においても2年前には寺田・若宮・泉地区において避難勧告が出された経緯もあり避難している。

新川地区住民一体となり、洪水災害を主眼とする自主防災に取り組むべき時期であると認識している。

- ① 2020年作成の洪水ハザードマップによる指定緊急避難場所について、立山北部に位置する高野・利田・新川地区の避難場所は計11か所となっているが、収容人数等十分な施設となっているのか。
- ② 新川保育所は、平成25年のハザードマップでは指定避難場所となっていたが、今年度作成のハザードマップでは指定避難場所に指定されていないという認識でよいか。
- ③ 指定緊急避難場所となっている立山北部小学校について、校内の防災設備・備品等について具体的にお聞かせ願いたい。駐車場の防災設備には何があるのか。体育館には何を備えているのか。
- ④ 緊急時の学校関係者との連携について、具体的な方法をお聞かせ願いたい。防災設備等の使用や体育館への入館は迅速に行えるのか。
- ⑤ 各地区の防災訓練について、町が主催する訓練の実施予定はあるのか、新川地区で新川公民館、北部小学校を拠点とする防災訓練の実施を希望した場合、町当局の協力は得られるのか。

(総務課長)

本年3月末に全世帯に配布させていただいた「洪水ハザードマップ」には、町指定避難所として、立山北部小学校、新川公民館を記載し、指定緊急避難場所として立山北部小学校を記載している。また、町北部に位置する利田地区における洪水時の避難場所は、町民会館、雄山中学校、高野地区は、五百石公民館、立山中央小学校、総合公園、日中上野小学校としており、新川地区以外での避難を想定している。新川地区の受入可能人数は750人(新川地区住民の24%)であり、避難する場合は、他地区へ避難していただくことも考えられる。

現在、町では、備蓄品として非常食用のアルファ米やパンを合計 8,000 食、段ボールベッド 700 セット、災害用毛布 1,000 枚等を備蓄している。また、今後、仕切り用のテントを 600 セット購入することを予定し、備蓄品の充実に努めている。これらの備蓄品は、町防災備蓄施設（旧佐伯会館）、町民会館等で保管しており、災害が発生した場合、町職員が指定避難所に運搬することとしている。

また、学校や公民館を避難所として指定する場合は、あらかじめ、施設所管課の職員、避難所支援担当職員を派遣する。いつでも避難所を開設できるよう、施設所管課で鍵を管理し、学校長や公民館長等施設責任者と連携を図り、迅速かつ円滑な避難所開設に努めていく。

次に、町の総合防災訓練は年に 1 回、原則、公民館単位で実施しており、新川地区は 3 年前の平成 29 年度に実施した。今年度は開催しておらず、各地区単位の開催だと 10 年に 1 回程度の開催となるが、浸水想定区域や土砂災害警戒区域等のある地区について、開催時期を早くできないか工夫していく。

また、自主防災組織ごとに避難訓練を実施する場合は、町消防署、総務課等にご相談いただければ、より充実した訓練となるよう、協力させていただくので、担当者にご相談いただきたい。

近年、異常気象による想定を超える大雨や台風の発生が多くみられ、全国各地で災害が発生している。平成 30 年には新川地区の 3 地区で河川の増水による警戒レベル 3 の避難準備・高齢者等避難開始を発令いたしました。その後、水位が低下し被害はなかったが、今後、いつこのような状況になるかわからない。

町では、防災行政無線やエリアメール、ツイッター、ホームページ、区長への電話による連絡等により周知するが、10 月より、登録いただいた皆様のメールやライン等に気象警戒情報や行政情報を自動的に発信し、情報をお伝えしている。是非、登録いただき、自ら情報を収集し、まずは、自分の命をしっかりとお守りいただきたい。また、自主防災組織ごとに災害時の行動について話し合ってもらい、互いに助け合いながら迅速な避難行動ができるよう取り組んでいただきたい。

(3) 自由意見

- LINE での情報発信が遅すぎる。例えば、10 月 30 日 10 時に目撃された熊情報が 17 時 20 分に LINE で通知された。洪水等の緊急を要する情報は早急に送らないと意味がない。なるべく早く通知するよう努力してほしい。

(農林課長)

熊の目撃情報については、朝に目撃された方が昼や夕方になってから役場に通報してこられることもあり、実際発生した時間よりも遅れて情報を発信することになる。町としてはすぐに熊情報を発信できる体制をとっており、今後もすぐに情報を発信するよう努力していく。

(町長)

豪雨災害の時の情報が一番大事である。今回町が取り入れたシステムは、豪雨災害時など緊急時には、パソコン上でセリフを入力すると、防災行政無線、メール、LINE、Twitter

などで一斉に流れるシステムである。特に通知に気づきやすいLINEを周知していきたい。

- 指定緊急避難場所である立山北部小学校の駐車場には、どのような防災設備があるのか。体育館には何を備えているのか。

また、緊急時の学校関係者との連携について、避難所の鍵は新川地域にお住まいの町職員が開けることになっているのか。

(総務課長)

立山北部小学校の体育館等には非常食などは備えておらず、集中して町防災備蓄施設あるいは町民会館に備蓄している。それを緊急時には町職員が必要な場所へ持ち出すようになっている。

学校、公民館の鍵については、町教育課の職員が保管しており、緊急時には避難所を

ぐに開設することになっている。

- 洪水ハザードマップを見ると、利田地区は3か所すべての避難所が使えず町民会館に逃げることに、高野地区は6か所中3か所しか使えず、町民会館や消防署、米沢児童公園に逃げることに、新川地区は2か所に避難することになっている。利田や高野の方が、洪水時に町民会館へ避難することが現実的に可能なのか。新川住民として、立山北部小学校や新川公民館が、舟橋村や上市町など近隣町村を含めた北部地域の避難場所の拠点となると想定している。町としてはその点をどのように考えているか。

(総務課課長補佐)

他市町村の住民が町内に避難することについては、市町村単位で住民の避難場所を確保することとなっていることから、近隣町村から協力要請があれば町外の方が町内に避難してくることがあるかもしれないが、今のところ要請はない。

(町長)

利田地区の方が新川地区に避難する想定について、先般、利田地区の町政懇談会において五百石地区への避難を強くお願いしたところである。五百石地区まで遠いというお叱りもあったが、近所の一人暮らしの方や車をお持ちでない方の乗り合わせでの避難について集落で話をしておいてほしいと申し上げた。

高野地区に関しては、栃津川の東側の地域については、上段地区の町総合公園屋内グラウンドへ避難することをお願いしている。

また、防災備蓄品については、限られた備蓄と職員の中で、一箇所にとめておいて災害発生場所に一度に運ぶことが町に合っていると考えている。

- 今の町長の話がきちんとハザードマップに記されるようお願いしたい。他の地区住民が避難してきたら追い返すわけにはいかず、収容人数も限られているため不安である。そういったことを含めて、いち早く公民館と消防団詰所を整備してもらいたい。指定緊急避難場所として考えた時にこれでよいのかと不安になる。

加えて、大雨の際に、用水の水が溢れて体育館ピロティー内に流れ込んでいる状況である。立山北部小学校を避難場所としているにも関わらず、ピロティーが水浸しとなる状況である。また駐車場には炊き出し用のコンロがあるが、その説明はなく、その使い方を誰が知っているのか。設備的に整っていても、災害時に誰も使えなければ意味がない。そのような訓練も含めて早急に検討していただきたい。

(町長)

地区の要望について、10月30日に執行部から各集落の要望を含めた要望書をいただいた。後日まとめて文書にして、区長会長を通じて各集落の区長に案内がいく予定である。

長年、新川公民館の改修について要望をいただいている。新川公民館が町内の公民館の中で一番古いわけではなく、昨年度コンサルが各地区公民館の耐力度（安全度）を調査したが、新川公民館が一番低いわけではなかった。ただし、老朽化が進んでいくため、多少の修繕を行い、いずれ建て替える必要がある。できれば総合計画の中に、町全体の公民館の改築計画を入れていきたいと考えている。

次に、町主催で防災訓練を実施するのは例年10月の日曜日だが、色々なイベントがあつて年に一度しかできず、各地区での開催は10年に一度となってしまう。新川地区で訓練を計画した場合、消防署や総務課が協力できるのかという質問があつたが、区長会で実施する訓練に町が参加するというのは有りだと思った。立山北部小学校のグラウンド等も国の防災関連の予算を使って整備した経緯があり、炊き出し用コンロについてその際に地区住民に見学してもらうというのは良いアイデアだと思う。

- 新川公民館の改築について6月議会で窪田議員からもお願いしているところである。新川公民館は、4/17～5/31 臨時休館、6/1 から再開した。コロナ禍において、密を避けるため、2階大ホールで会合を実施している。2階は階段の上り下りが大変だと年配の方から意見があるため、改築をいち早く検討してほしい。

また、新川公民館の耐震基準はクリアしているのか。耐震診断基準（IS）の診断結果の数値を教えてください。前は0.7だった。

(町長)

耐震指数の資料が手元にないので後日お渡しするが、現在の耐震基準はクリアしている。教育委員会が行った健全度調査の結果では、五百石公民館が最も悪く、二番目が大森公民館だった。順番に改築する計画を立てられるように総合計画で検討中である。

多くの公民館の大ホールが2階にあるため、敬老会等の実施が困難な状況になっている。建て替えの際は、浸水の可能性が低い新川公民館であれば、平屋建てという選択もあるかと思う。またご指導いただきたい。

- 新川保育所が廃所になってからのその後の進捗状況をお伺いしたい。

(総務課長)

今年2月に公募型のプロポーザルにより宅地開発できないか募集したが、応募がなかった。そこで、今年度保育室を改修してサテライトオフィスを誘致しようと、現在基本

設計をしているところである。来年度改修工事ができるよう現在進めている。

3 閉会

山口会長、窪田議員挨拶

終了